

# 加速器質量分析の最前線と展望

## Advance and future prospects of accelerator mass spectrometry

加速器質量分析(Accelerator Mass Spectrometry, AMS)は、宇宙線生成核種の同位体比を高精度で測定できる技術です。

近年、国内の施設におけるAMS測定により、考古学、宇宙物理学、環境学、医学・薬学に至る幅広い分野での研究が展開され注目を集めています。

また、AMSの応用ともいえる理研の分離装置GARISを用いて、アジア初となる新元素が合成・発見されるなど、本分野は目覚ましい進展を見せています。

本シンポジウムでは最前線の研究内容について気鋭の研究者の方々からご紹介いただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】 2018年9月19日 9:00~12:15

【場所】 名古屋国際会議場

### 「AMSの原理と環境動態学への応用」

松崎 浩之 (東京大学MALT)

### 「難測定核種の加速器質量分析による高感度検出手法の開発」

笹 公和 (筑波大学)

### 「イオンチャネリングのAMS技術への応用開拓」

松原 章浩 (株式会社ペスコ)

### 「放射性炭素微量分析が拓く年代研究の新展開」

大森 貴之 (東京大学総合研究博物館)

### 「樹木年輪の炭素14濃度に刻まれた過去の宇宙線増加現象」

三宅 芙沙 (名古屋大学ISEE)

### 「ニホニウム113番元素(加速器質量分析と放射線検出器)」

森本 幸司 (理研仁科加速器科学研究センター)

【世話人】 門叶 冬樹(山形大), 越水 正典(東北大院), 金崎 真聡(神戸大)

【企画】 応用物理学会 放射線分科会